

ハリーン通信 Vol. 30



〔目次〕

- P1 表紙・ふるさと環境体験ツアー 「田植え体験」写真
- P2 ふるさと環境体験ツアー 「田植え体験」
- P3 不法投棄防止地区の活動紹介 「多可町加美区杉原地区」
「加東市梶原地区」
- P4 環境学習 「あびき湿原観察会」加西市立宇仁小学校・富田小学校
- P5 環境学習 「ホタルのお話し」「バイカモのお話し」杉原谷小学校
- P6 寄稿「ナチュラリストクラブ」尾内 良三 さん
- P7 高等学校の取組み 「三木北高等学校」
- P8 市町の取組み「加東市 フードドライブ」
ハリーン通信がインターネットで見られます





アイガモ農法の講演と田植え体験

兵庫県では、変化に富んだ県土をフィールドに、子どもから大人まで、ライフステージに応じた多彩な環境活動に取組み、身の周りの環境問題に気づき、考え、行動する基盤となる環境学習・教育を推進しています。

6月、北播磨県民局では小学生とその保護者を対象に、環境にやさしい有機農法でつくる山田錦（アイガモ農法）の田植え体験を実施しました。

開催日が、当初の予定日より1週間遅れ、アイガモ達がすでに田んぼで活躍している中、多可町中区天田公民館に元気いっぱいの児童と保護者のみなさんが集まりました。



始めにアイガモ農法で酒米を作っている「学びの農」インストラクターの吉田さんのお話を聞きました。

アイガモは朝と晩は餌を食べます。昼間は田んぼの中で虫やカエルなどを食べています。アイガモは田んぼの中を土を混ぜながら動くので水が濁り、光合成ができないため草が生えてきません。

10アールの田んぼに約20匹のアイガモを入れます。この田んぼは農薬を使わない「兵庫JAS有機」米として認証されています。

かわいいアイガモを見ると心が癒やされます。

お話しの後、いよいよ田植えの開始です。



「ぬるぬるしていて気持ちがいい!」「粘土みたいな感じ!」と田んぼに入った子ども達から声があがりました。「もう少し苗を深く入れて!」「曲がってる!」歓声をあげながら、2つの田んぼの一画の田植えをみんなで協力して終わらせました。

小野市から参加された保護者の方は「子どもと同じく私も田植えを楽しみにしていました。田んぼに入るのも、田植えも初めてです。楽しかった。また、田植えをしたいと子どもと言っています。アイガモも可愛かったです。」と話しておられました。貴重な体験に満足された様子でした。



後日、ステキな感想文とかわいいアイガモの絵が届きました。ありがとうございました。

これからも、体験型の環境学習を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。





不法投棄防止地区の活動紹介 ～多可町杉原地区～



多可町杉原地区は多可町の北部に位置する小規模集落です。空家・遊休地が年を重ねるごとに増加し、その管理と防犯対策に地域の方々は苦慮されています。

地区の西側には山林、東側には杉原川が南北に流れ、長年にわたりその管理を続けてこられました。

以前は杉原川の堤防に不法投棄が多く発生していましたが、隣接地区と共同で堤防入口2か所にチェーンゲートを設置し車両の通行を制限したことで堤防への不法投棄は無くなりました

しかし、林道周辺や地区の墓地、堤防周辺に場所を変えて不法投棄があり、対策を考えているところだそうです。

昨年より不法投棄防止地区に登録し、不法投棄防止の看板を設置したり、地域住民で、草刈りや、クリーンキャンペーン、水路や公民館の清掃、空き缶回収などを行い地区のみなさんで環境美化に取り組んでおられます。

杉原地区川口区長は「今後は人口の減少、農業従事者の減少などの現状を見据え、行政に相談しながら不法投棄防止等を進めていきたいと考えています。」と話されていました。



不法投棄防止地区の活動紹介 ～加東市梶原地区～



加東市梶原地区は加東市の西側中央に位置します。地区内を通っている県道 567 号沿いに商業施設が建ち並び、生活に便利な地域です。

車や人の往来が多いこの地域では、ごみ集積場に収集日に関係なくごみが頻繁に置かれており、小型家電などの回収不可能な物も出されていて困っていました。

小型家電など、収集されないものは、役員が家に持ち帰り、保管しておいて粗大ゴミの日に出したり、クリーンセンターに持ち込んで処分を行っていたそうです。

また、地区内の神社の森や、川沿いの竹藪周辺にも不法投棄があり、その都度対処されていました。

この地域は平成 28 年から不法投棄防止地区に加わりました。

藤本区長は「地区の方々に

正しくゴミを分別し収集日を守ってもらうように啓発したり、北播磨県民局から提供された看板などの不法投棄防止資材を利用させてもらうと同時に、見回りをして不法投棄をなくしゴミのない美しい地域にしたいと思っています。」と話されていました。





加西市立
宇仁小学校・富田小学校



あびき湿原観察会



6月17日。加西市で希少動植物の多様性を誇る「あびき湿原」の観察会に、加西市立宇仁小学校と富田小学校の児童のみなさんが参加しました。

バスから降りてきた、元気いっぱいの子ども達に「あびき湿原でどんな昆虫や植物が見たいかな？」と質問すると「カブトムシ」「アゲハチョウ」「ハッチョウトンボ」とたくさんの答えが返ってきました。

初めにあびき湿原保存会の山下会長のお話がありました。植物に触れるとかぶれることがあるので、木や葉を触らない。草むらでは、マムシや山カガシなどの毒蛇に気をつける。

暑くなったらマスクを外し、友達と会話をしない。など観察会での諸注意を聞きました。

講師はあびき湿原保存会、山下会長と、尾内さんです。そして2つのグループに分かれ、観察会がスタート！

鳥獣除けの柵を通過して、あびき湿原に入りました。

木立の中を通ったところで、外からの種等を持ち込ませないため、小川で靴底を洗いました。

「ウラジロ」という葉は、裏側が白く、ろうそくと同じロウがついているので、燃えやすくなっている。など植物の説明を聞きながら湿原内を歩きました。ノハナショウブやササユリなども見ることができました。



「ノハナショウブ」



希少植物の
「ササユリ」
が美しく咲いていました。

他にも
「トウカイモウセンゴケ」
や「トキソウ」なども
見ることが出来ました。

そして、木道を歩いていると、小さな「ハッチョウトンボ」がたくさん飛んでいました。

日本一小さな一円玉くらいのオスとメスの「ハッチョウトンボ」を見て児童のみなさんはとても嬉しそうでした。「わあ、小さい。」「オスの方がきれいな色をしてる。なんで？」

「ハッチョウトンボはどこに？」

ここです！



児童のみなさんは、あびき湿原でしか見られない生き物や植物を見て、自然を大切にしたいと思うようになったようでした。

ハッチョウトンボのオスはメスにアピールし、種を残すためにきれいな赤色をしているそうです。

「家に帰ったら、あびき湿原のことを弟に教えて、またハッチョウトンボを見に来たい」と話している児童を見て、観察会がとても楽しかった様子が感じられました。



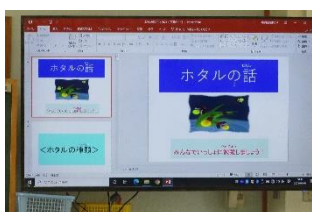
「ホタルの学習」と「バイカモの学習」



多可町立杉原谷小学校で、3年生が「ホタルの学習」をしました。

6月3日「ホタルの里」と呼ばれている地区に住んでおられる、山口さんを講師に迎え、ホタルの種類や生体、生息条件や環境との関わり、環境保全の取り組みを教えていただきました。

地球上には2千種類のホタルがいて、日本には50種類が生息していることに生徒の皆さんは驚きました。関西ではゲンジホタルが多くおり、山口さんの地区ではヒメホタルも見ることができるそうです。



ホタルの生息のためには、エサとなるカワニナが川にいたることが必要ですが、昔は台所やお風呂から出る水などの生活排水を川に流していたので、一緒に流れる洗剤や薬剤などの影響を受け杉原川の水質が悪化。カワニナが減り、ホタルもなくなった時期があったと話されていました。

そこで、加古川上流の杉原川だから、きれいな水を下流に流そう！未来の子供たちのために美しい川にしよう！と、合成洗剤を使わない運動が始まり、さらに全町下水事業に取り組むことで、きれいな水を川に流す努力をされてきたそうです。



ホタルのお話しを通して、生徒の皆さんに美しい自然環境を守っていくことの大切を伝えていただきました。美しく光る幻想的なホタルの映像に心を癒された環境学習でした。



ばい か も
翌6月4日は「梅花藻の学習」をしました。

梅花藻は杉原谷小学校の近くに生息しており、その地区で梅花藻の保全をされている足立さんが講師です。

梅花藻は梅の花に似た花を咲かせ、キンポウゲ科の水生多年草です。クリスマスローズ、アネモネ、クレマチスなど3千種類もあるキンポウゲ科の植物の中で、梅花藻だけが水の中に咲くそうです。

葉や茎は水の抵抗に耐えるように柔らかく、水の中で光合成により葉から酸素を出し、それにより、水がきれいになります。



根を川底の土に張って育つので、用水路に四角の穴を開けて砂を入れ、根が張りやすいように工夫をしたり、冷たくてきれいな流れのある川にしか梅花藻は生育しないので、地域のみなさんで用水路の清掃活動を行っているそうです。

「ホタルの学習」と「梅花藻の学習」2日間の学習で、杉原谷小学校の3年生の皆さんは、美しい自然環境の中で日々生活をしていることに気づいたことでしょう。

素晴らしい自然環境を残し続けていくことを、次世代の皆さんに繋げて行くために、このような環境学習の積み重ねが大切であると感じました。



兵庫県が「環境教育」を取り入れてから13年～14年になり、今では耳慣れた言葉になっている。環境教育の定義—「環境教育とは、環境や環境問題に対する興味、関心を高め、必要な知識・技術・態度を獲得させるために行われる教育活動」とある。上記定義を私なりに換言すると「文化の発展と共に変化する環境に対し、人類をはじめとする全ての生物や地形、景観その他に至るまで、あらゆるものを大切に思いやる心を肌を通して体験できる教育活動」であり、微弱ながらこの環境教育に携わってきた。それらの中から幾つかを紹介し、環境にあまり関心の無かった方にも少しでも興味を持っていただければこの上ない喜びである。

唐突ではあるが、恋愛について考えてみたい。「相手に興味を持つ→相手をもっと知りたくなる→相手を好きになり愛するようになる→相手を守ってあげたくなる」この理論は万物に共通する理論である。

自然環境で、例えばトンボでは「トンボに興味を持つ→トンボについてもっと知りたくなる→トンボが好きになる→トンボを守りたくなる」となる。これを「恋愛プロセスの理論」（勝手に提唱）とし、環境教育に活用できると考える。また年少の児童には家族愛について話し合うことも成果に繋がるものと考えている。



大志の森づくりの様子

（財）こども教育支援財団・クラーク学園では、小・中・高・卒業生（大学生を含む）など、異年齢の授業に携わった。この時は県立やしろの森公園の中の一画に「大志の森」と名付けて、森林整備をはじめ、散策路と階段づくり・実のなる木の植栽・看板作り・ロープ遊び・料理その他の体験学習を行った。授業の目的は環境及び上記課題を成し遂げることではあるが「人づくり」でもある。つまり友達と力を合わせることで完成した達成感と喜び。一緒に作業をした参加者と仲良くなり、考え方や気持ちが理解できた。上級生が下級生の面倒を見ることで、思いやりの心やお互いに学ぶことがあることに気付くなど人間形成に必要な要素が多く含まれている。

現在、加西市のあびき湿原では、近隣の九会小学校や富合小学校の児童に里親になって頂き、ギフチョウの幼虫の食草ヒメカンアオイをはじめ、ノハナショウブ・ユウスゲの種子を採取して育苗、再び湿原に戻して定植をしている。

そして定植後の水やりも各自ペットボトルを持参で行っている。

ギフチョウはヒメカンアオイに産卵したあと、吸蜜のためにサクラをはじめ、ショウジョウバカマ・カタクリ・スミレを訪れて花粉を運び結実した植物は増えていく。

この活動を通して、植物を植えた事が、他の多くの生物に繋がることや、生物は単独で生きられない事を学習することができる。



私は子どもの頃から、野山や水辺で遊ぶことが多かった。草原に寝てじっと空を眺めていると雲がゆっくりと流れ、空高くトビが弧を画く。遠くの汽車の音が聞こえる。自然と同化して五感を通して万物と話し合う。情操・想像・創造に繋がる。

環境に関わる活動を通して、私自身は様々な事を学び、伝えてきた。

生物多様性の命の問題は「持続可能な人間の活動」が前に立つことで、丁寧に説明し児童たちの混乱をなくしたい。今後も環境教育に携わり、環境保全を続けて行きたいと考えている。

高等学校の取り組み



～人と環境の三木北高～ 兵庫県立三木北高等学校

兵庫県立三木北高等学校は三木市南部のニュータウンに所在します。周囲には農村部が広がり、自然環境保全活動の対象地域は多く、自然豊かな環境の中にあります。

2009 年度に教育活動の見直しを図り、2010 年度に「人と環境類型」を設置しました。

この類型は現代社会の課題である「環境」をキーワードとして、地域のつながりや環境保護・保全に積極的に係わることを目的としています。

そして 2012 年には兵庫県では県立高校初の「ユネスコスクール」に認証されました。

ユネスコスクールとはユネスコ憲章に示された理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点と位置づけられています。

さらに三木北高校では SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールうち可能なものを目指し、様々な活動を展開しています。



国際理解教育



- 2019 年三木市姉妹都市、オーストラリアから訪問団来校。
- カンボジアの Minami Japanese School と Skype 交流
- 共生社会を目指した人権 HR～異文化交流プロジェクト



グリーンカーテン

環境教育



(株)ユニクロの社会貢献活動
「届けよう、服のチカラ」
プロジェクト



神戸電鉄
緑が丘駅前清掃



伽耶院カタクリ植栽
ボランティア
グリーンカーテン



揚げ！「希望の風 in 三木」



宮城県南三陸町・志津川高校野球部との交流

地域連携教育



インターシップ
赤ちゃん先生招聘



のじぎく特別支援学校
とのサッカー交流



「Bye バイキンプロジェクト」
「子ども食堂」



三木さんさんまつり
運営ボランティア



ぐるっとワールド in Miki



緑が丘地区・
青山地区文化祭
ポスター展示
三木北カレンダー
作成・配布



台風 19 号募金活動
および被災地
ボランティア



左上：ペットボトルのキャップ集め
右上：伽耶院カタクリ植栽ボラン
ティア

三木北高校は所在地の青山地区の誕生・発展と共に歴史を刻んできました。地域の方々はととても協力的で、学校の活動に関心を持ってくださっているそうです。

「三木市、大学、企業との連携を活用し体験研究活動に主体的に取組ませ、自ら考え行動できる共生社会のリーダーの育成」という三木北高校の教育方針に向かって、今後の取り組みが楽しい学校でした。



マックスバリュ社店・マックスバリュ東条店で「フードドライブ」を実施

加東市 市民協働部 生活環境課・加東市社会福祉協議会・マックスバリュ西日本株式会社の協働により「フードドライブ」の食品回収を行いました。

フードドライブとは、家庭で余った食品を集め、支援を必要とする家庭に配布したり、福祉団体へ寄付したりする活動です。



日本では、年間約600万トンの食品ロスが発生しており、国民一人あたり、毎日お茶碗1杯分のまだ食べられる食品が捨てられていることになります。

この度のマックスバリュ社店・マックスバリュ東条店での「フードドライブ」の食品回収活動で、538点の食品が集まりました。



フードドライブにご協力
いただき「もったいない」
を「ありがとう」に
変えてみませんか？

集まった食品は新型コロナウイルスの影響など、様々な事情のあるご家庭などに届けられます。



ハリー通信がインターネットで見られます

平成17年の創刊号から、最新の29号までのハリー通信をインターネットで見ることができます。ぜひ、ご利用ください。
「北播磨県民いきいき情報」を入力し、検索してください。

右のQRコードからでも見ることができます。→

兵庫県北播磨県民局 県民交流室 環境課
電話0795-42-5111（内線341）
FAX0795-42-7535

